

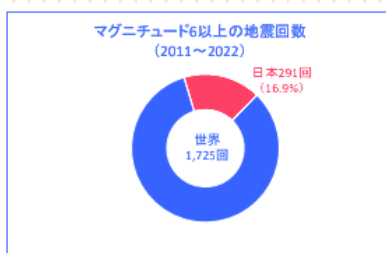
防災の芽 ～地震への備えを考える～

今年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震で、1,500名以上の人的被害が発生しています。本県も平成23年に発生した東日本大震災で大きな被害を受け、避難先やご自宅で大変不便な思いをされた方は少なくありません。

日本はその地理的な要因などから、地震が絶えません。世界で発生しているマグニチュード6以上の地震の約2割が、日本の周辺で発生しています(図1)。

※ 国土交通省ウェブサイト「河川データブック2023」より
<https://www.mlit.go.jp/>

図1*



出典:アメリカ地質調査所(世界) 気象庁(日本)

災害への備えを考えると、自助・共助・公助の3つに分けられます(図2)。特に、大地震等の直後、一人ひとりを助け、守ることに必要不可欠なものは自助と共助といわれています。

それはいったいなぜでしょうか?

図2



東日本大震災発生後5日間の本組合への災害通報件数を集計したところ、119番通報や警察からの通報を合わせると、現在の一日平均通報件数70.6件*の約6～12倍の通報がありました(図3)。当時、本組合では人員や車両、資器材など限りある消防の資源を最大限活用するために、緊急度・重症度が高い順に対応しました。

このことから、一度大きな災害が発生すると、消防はすべての事案に即時に対応できないため、住民の皆さま一人ひとりが日頃からご家庭や地域での役割を考え、備えをしていただくことが大切です。

※ 本組合の2022年の集計値

災害発生直後は、短時間に多くの情報が押し寄せます。受け取る側は情報の選別が間に合わず、時に混乱してしまうことがあります。必要な情報を正しく得るために、日ごろから情報の発信元やその根拠を落ち着いて確認するよう心がけましょう。

防災の芽

家庭でできる地震への備え



- 1 家具の転倒や落下を防止
- 2 飲料水・食料品 ティッシュ等の備蓄
- 3 避難場所や 家族の行動の確認
- 4 スリッパ・笛 懐中電灯の準備

各自治体の地域防災計画では食料等の備蓄を最低3日分確保に努めるよう定めています。

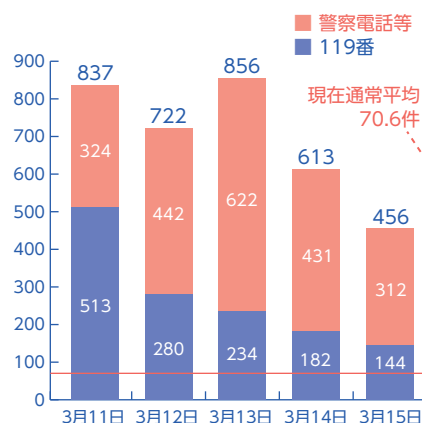
具体的な備蓄量は下記リンクのほか、家庭の状況に応じて各種資料を参考にしてください。



政府広報オンライン
 「災害時に命を守る一人ひとりの防災対策」

図3

東日本大震災時の本組合への災害通報件数



郡山消防SNS

火災予防から日々の訓練、統計まで、生活に役立つ情報発信中

Facebook



X



Instagram



YouTube

